

ちば里山・バイオマス・シンポジウム活動報告

2017年11月25日、御宿町公民館にて「外房・御宿の地域資源活用シンポジウム」が開催されました。森・川・海のめぐみを活かして、漁業再生、里山・里海保全、観光振興をテーマに、御宿町関係者、NPO法人、研究者、近隣地域の里山活動関係者など多数の参加がありました。限られた内容ではありますが発表者の話をまとめてみました。主催「ちば里山・バイオマス協議会」後援「御宿町」「千葉県漁業協同組合連合会」

高澤真 | ちば里山・バイオマス協議会 共同代表



主催者 開会あいさつ

このシンポジウムをきっかけに、御宿町でも木質バイオマス等に対する関心が高まり、資源の有効利用を考えるバイオマス利活用について活発に議論され漁業再生につながればと願っております。準備に当たって頂いた皆様に感謝申し上げます。

石田義廣 | 御宿町町長



来賓代表あいさつ

本シンポジウムを通じて、畠山さんから多くのことを学ばせて頂きたい。先生の著書「森は海の恋人」の「森は漁民の命である」が印象深い。漁業再生はこれから地球的、長期的な取り組みになると思うが町民の皆様から多くの示唆をいただき一緒に町づくりを進めたい。

第1部 基調講演 | 畠山重篤 NPO森と海は恋人 代表

気仙沼湾に注ぐ大川上流に木を植える



気仙沼では息子や孫が手伝ってくれている。豊かな海があればこそ、みんなが生活していける。東日本大震災で学者先生は、海は死んでしまったと言った。生き物がなくなった。しかし、そのあとの京都大学 田中克(まさる)先生のプランクトン調査で海が生きていることがわかり涙が出た。牡蠣は1日200Lの水を吸う。二枚貝が海にいることは海をきれいにすることになる。キートセロス(プランクトンの一種、貝類の餌料としての珪藻類)が大切。ロープ1本から900個の牡蠣が取れる。そのためには、森からの栄養が大切。私は宮城県でホタテ栽培に初めて成功した、夏の売り上げは100億円になる。1年中貝が育つのは「森は海の恋人運動」の勝利。20数年木を植え続けた、岩手県の山から宮城県の海に栄養分が流れてくる。千葉はやりやすい。地域の人々の生活が海と関連している、子供たちに森と川と海は、どうつながっているか教えた。言い換えると子供たちの心に木を植えた。その数は1万人を超えた。子供たちの中の木が育ってきた。

鉄分がなければ海は豊かにならない

磯に海藻をどうやって育てるか。川の流域に木を植えて、川を汚さないようにする。住民の心を変えなければならない。例えば蘇鉄は、鉄でよみがえると書く。植物プランクトンが増えないのは鉄分がないから。ジョン・マーチン博士の鉄仮説によって「森には魔法使いがいる」それは鉄分であることが分かった。酸化鉄はそのサイズの大きさのため植物の細胞膜を通ることができない。ここで森の出番、森の中の腐葉土にはフルボ酸があり、フルボ酸鉄となる。フルボ酸鉄の形状であれば植物の細胞膜を通過する。これで森と海がつながった。しっかりと腐葉土のある山から運ばれたフルボ酸鉄がなければ海の生態系は貧弱なものになってしまう。その意味で植林活動は実に合理的なものだった。広島湾も、北海道にも腐葉土が多い、現在の大阪湾も工事の際鉄鉱石を海に入れたのでアワビが採れるような海になった。気仙沼湾は30年前から木を植えた、そのおかげで今も海で飯が食える。京都大学の田中先生の研究でここまでわかった。あきらめないでみんなでやれば、またマダカアワビが採れるようになる。またいつかお会いしましょう。

第2部 パネルディスカッション モデレーター 松原弘直 ちば里山・バイオマス協議会共同代表

吉清文夫 観光協会会長



環境の保全については、多様な生物が生きているからこそ私たちも生きていけると考える。今こそ無農薬で海を守りたい。観光振興のためにも農業者を育てたい、菜の花も植えたい、秋にはコスモスを咲かせたい。人が呼べるようにしたい。町が積極的に農地の有効利用に取り組んでもらいたい。住民の皆様にも協力していただきたい。

畑中英男 岩和田漁協組合長



昭和50年代には年にアワビが70t獲れていた、今は1tに満たない。女海女さんは3年前に亡くなった。今は男だけ。海が豊かでお金になればまた戻ってくる。森に植林をして海を豊かにする。畠山先生とはご縁がある。今後ともご指導受けたい。海は現代社会の犠牲になっている。昭和50年代の水質に戻したい。

貝塚優一 商工会青年部



御宿の地域資源は青い海と白い砂浜。気候変動で海岸が荒れている。年間を通してきれいにしたい。訪れる観光客のため、地元の子供たちのためでもある。青年部は川の清掃を続けている。鉄が海を豊かにする話は興味深い。川が汚染されないようにしたい。不法投棄がないようにしてもらいたい。

石井義清 御宿町議会議員



産業建設委員をしている。木質バイオマスに関しては一歩ずつ進める提言をしている。バイオマス利活用研修会をしている。近畿大学から先生を迎えた。コンポストの実演もした。日本有機資源協会からも講師を招いた。結果、生ごみコンポストが町に増えた。獣害問題、農村問題にも取り組みたい。

竹林征雄 NPO農都会議 理事

バイオマスエネルギーが資本を内に留める力になる



地域創生に取り組んでいる。地元にあるバイオマスでエネルギーを得て、地産地消をすすめることでお金は地域に残る。地域に雇用も増える。例えば、地域電力を作る。エネルギーを軸に産業振興をする。やれることから小さなことから始めたら良い。二宮尊徳に学ぶ。自治体にはお金がない時代、化石燃料に頼らず、地元の排泄物や木質資源から可能になる時代である。

小浪博英 (一社)国土政策研究会専務理事

美しい港町の景観作りを



メキシコとの交流が深い国際都市御宿にしては、岩和田の港が寂しすぎる。外房の美しい風景にあう「美しい御宿作り」を目指す。景色の良いところに宿泊、飲食を考える。メキシカンバブもよい。歴史の町でもある、五倫文庫など、もっと発信すべきと思う。本日のテーマ、バイオマス利活用とその次にはCNF(セルロースナノファイバー)も有望な産業である。そうした次世代産業も考えたい。